

第3学年 英語科学習指導案

日時 平成18年9月21日(木)5校時
生徒 北上市立上野中学校3年A組
男子14名 女子18名 計32名
指導者 平野 道子
高橋 春香

1 単元名 New Horizon English Course 3 Unit 4 An American Rakugo-ka

2 単元について

(1) 教材観

この単元では、日本文化の事例として落語を取り上げている。後半は英語落語を読みながら、日米の文化の違い、特に言語表現の違いをテーマにしている。英語と日本語の意味を1対1で対応させることの問題点を意識させたい。

文法事項では「疑問詞＋不定詞」「It is＋形容詞＋for - to ~ .」が取り上げられている。それぞれの形・意味・用法を理解させたい。

(2) 生徒観

3年A組は、男子14名、女子18名、計32名で構成される学級である。学級にはムードメーカーがいるため、明るい雰囲気が保たれている。男女の仲は良いが、時々騒がしくなってしまう傾向がある。

継続して予習点検を行うことで大部分の生徒は予習する習慣が定着している。授業中は挙手をする生徒が多く、元気に音読をすることができる。一方で一部ではあるが予習の習慣が定着せず、英語に苦手意識を覚えている生徒もいる。上位と下位の生徒の両方に配慮しながら全員が達成感を得られるように支援していきたい。

(3) 指導観

年度当初から基礎基本の力をつけるために、授業の最初に小テストを行うことを継続的に取り組んでいる。1学期は、3年生の単語の小テストと応答試験対策の小テストを隔週で行ってきた。2学期に入ると、1年生の単語の小テストと英検のリスニング問題を解く小テストに切り替え行っている。又毎時間、自己評価カードに記入させ、生徒の理解度を把握するように努めている。その中で班毎の活動を積極的に取り入れながら、学習リーダーを育て生徒同士の教えあい学習がより充実したものとなるように意識している。

本時では、自分の得意なことと不得意なことを班毎に発表する場面で学習リーダーを活用したい。ここではリーダーが進行役を務め、リーダーの指示で発表し、各自が班員の発表内容をメモするといった活動を行う。生徒自身による自主的な活動を促したい。また個に応じた指導として、絵を見て英文を作る場面と自分の得意なことや不得意なことを英文で表現する場面の2つが挙げられる。下位の生徒に対しては2人の教師が机間巡視をすることによって、既習事項を想起しつつ新出文型を理解するように支援していきたい。また上位の生徒に対しては時間内にできるだけ多くの英文を作るようにさせたり、理解が遅れている生徒に教えたりさせながら、時間を有効に使うよう工夫をしていきたい。

3 単元の目標

(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

- ・ 自分の得意なことや不得意なことを紹介する活動に積極的に取り組もうとしている。

(表現の能力)

- ・ 「It is+形容詞+ for - to ~ .」の疑問文を用いて、得意なことや不得意なことについて適切に応答することができる。

(理解の能力)

- ・ 不定詞を用いて得意なことや不得意なことについて正しく聞き取ることができる。

(言語や文化についての知識・理解)

- ・ 「疑問詞+不定詞」「It is+形容詞+ for - to ~ .」の文の形・意味・用法を正しく理解している。
- ・ 日米の文化の違いの一例として、飲食店で注文するときの違いを知る。
- ・ 「すみません。」と I'm sorry. の違いを理解する。

4 単元の指導計画と評価規準 (6時間扱い 本時2/6)

次	時	指導目標	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力 (話す・書く・音読)	理解の能力 (聞く・読む)	言語や文化についての知識・理解
Unit4 Starting Out	1	「疑問詞+不定詞」の文の形・意味・用法を正しく理解することができる。				「疑問詞+不定詞」の文の形・意味・用法を理解することができる。(観察、授業中)
Dialog (本時)	1	「It is+形容詞+ for me to ~ .」を用いた文の形・意味・用法を正しく理解することができる。	グループ毎に自分の得意なことや不得意なことを話す活動に積極的に取り組もうとしている。(観察、授業中)	「It is+形容詞+ for me to ~ .」を用いて、英文を作り正確に話すことができる。(発表会観察、授業中)		「It is+形容詞+ for me to ~ .」を用いた文の形・意味・用法を理解することができる。(観察、授業中)
Dialog	1	「Is it +形容詞+ for 人 to ~?」を用いた文の形・意味・用法を理解し、それを用いて簡単な対話を行うことができる。		疑問文を用いて簡単な対話を行うことができる。(観察、授業中)		
Reading for Com	1.5	小話を読んで内容を理解することができる。			不定詞を用いて得意なことや不得意なこと	日米の文化の違いの一例として、飲食店で

					とについて正しく聞き取ることができる。(観察、授業中)	注文するときの違いを知る。(定期考査)
Reading for Com	1.5	小話を読んで内容を理解することができる。				「すみません。」と I'm sorry.の違いを理解する。(観察、授業中、定期考査)

5 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・グループ毎に自分の得意なことや不得意なことを話す活動に積極的に取り組もうとしている。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- ・「It is+形容詞+ for me to ~ .」を用いて、英文を作り正確に話すことができる。
(表現の能力)

(2) 本時の評価の観点と具体的評価規準

具体的評価規準	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する生徒への手だて
評価の観点			
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	自ら積極的に話す活動に取り組むことができる。	話す活動に取り組むことができる。	机間巡視による個別指導
表現の能力	「It is+形容詞+ for me to ~ .」を用いて、英文を作り正確に話すことができる。	「It is+形容詞+ for me to ~ .」を用いて、英文を作り話すことができる。	机間巡視による個やグループへの指導

(3) 本時の展開

段階	学習内容	生徒の活動	教師の支援	留意点 / ☆ 評価
導入 17分	1 あいさつ 2 小テスト	単語小テストに答える	間違いやすい単語の確認	テスト中に教師が机間巡視で点検も行う
	3 前時の復習 4 学習課題の確認 自分が得意なことや不得意なことを英語で紹介しよう	教科書の音読 スキットから、基本表現や使用場面を考える	教科書の音読 教師 2 人による会話の導入から基本表現や使用場面を考えさせる	授業の狙いを明確にする
展開 27分	5 基本表現の導入 「It is+形容詞+ for me to ~ .」の肯定文を学ぶ	口頭練習を十分に行う	既習事項との関連を想起させる	学習シートの配布
	6 基本練習 絵の内容を表すように「It is+形容詞+ for me to ~ .」の英文を作る・口頭練習	時間内にできるだけ多くの英文を作る	机間巡視、学力下位の生徒の支援	答えをより容易に連想できるように語数を示す
	7 グループ活動 班毎に、自分の得意なこと・不得意なことを表す英文を作る 8 発表会 班毎に学習リーダーが中心となり、出来た英文を発表しあい、メモをとる	班毎に協力しながら英文を作る 自分の得意なことと不得意なことを話し、内容を日本語でメモをする	基本表現や既習表現の意味を確認させる 机間巡視、学力下位の生徒の支援	☆ 8 の評価 (観察、学習シート) 自ら積極的に話す活動に取り組むことができる。(関・意・態) 「It is+形容詞+ for me to ~ .」を用いて、英文を作り正確に話すことができる。(表)
終末 6分	9 活動のまとめ 数人の生徒が発表する	自分や班員の発表を紹介する	活動の評価をする	他の班員の発表を聞くことで多様な表現を学ばせる
	10 本時のまとめ	基本表現の復習	基本表現の確認	
	11 自己評価	自己評価カードに記入	本時の内容を振り返らせる	
	12 次時学習の確認	次時の予告、予習の確認	次時の予告、予習の指示	